

道徳通信かがわ

第30号

平成30年6月21日（木）

香川県教育委員会事務局

義務教育課

小学校で道徳科が全面実施され、早くも1学期のまとめの時期を迎えようとしています。道徳科の評価を通知表に記述するようになりますが、初めてのことで、戸惑うことも多いのではないのでしょうか。今回の「道徳通信」が、その参考になればと思います。

通知表の評価 どのように記述する？

■道徳科の評価について

学習指導要領第3章の第3の4において、「児童の学習状況や道徳性に係る成長の様子を継続的に把握し、指導に生かすよう努める必要がある。ただし、数値などによる評価は行わないものとする」と示されています。また、指導要領解説には、個々の内容項目ごとではなく、大きくりなまとまりを踏まえた評価とすることや、児童がいかに成長したかを積極的に受けとめて認め、励ます個人内評価として記述式で行うよう求められています。

■通知表の記述について

指導要録は、学校教育法において定められたものであり、道徳科の評価についても上の内容に則って作成する必要があります。ただ、通知表においては、これを基本としつつ、児童の道徳科の学習状況が保護者により伝わりやすいものとなるよう、各学校で工夫することも可能です。

例えば、次のように本年度1年間の通知表及び指導要録の見通しを立ててみてはいかがでしょうか。

1学期の通知表：具体的に教材名を挙げながら、その児童の学習の様子を具体的に記す。

（例）『花さき山』の授業では、主人公のやさしい気持ちを考えることを通して、自分や友達の心の美しさについて振り返ることができていました。」

2学期の通知表：学習内容を少し広く捉え、その児童のがんばりが特に顕著であった内容項目について記す。

（例）「家族愛の学習では、自分の思いだけでなく、家族の自分に対する思いを感じ取ったり、友達の考えを聞いたりしながら家族への感謝の気持ちを深めていました。」

3学期の通知表：1年間を振り返って、その児童の成長について記す。

（例）「道徳科の学習を通して、主人公の考えと自分の考えを比べながら、自分が大切にしたい心を見付けることができるようになってきました。」

そして、この3学期の内容を生かし、指導要録に記載するといった方法も考えられます。

道徳が教科化されたことで、保護者も道徳科の授業への関心が高まっています。子どもたちが自分の頑張りや成長に気付き、保護者はそれを読んで喜ぶ、通知表が家族の温かい交流につながればと願っています。

※今回の道徳通信は、平成30年度教育課程指定校事業連絡協議会（4月23日）の指導・助言等に基づいて作成しています。